

つなぐこと，育っていくこと —— 精神医療のかたち ——

| 河野 美帆 Miho Kawano

近年，精神医療を取り巻く環境は大きく変化しており，臨床・教育・研究のいずれにおいても，そのあり方が改めて問い直されていると感じております。こうしたなか，このたび理事として学会運営にかかわらせていただいておりますことに，心より感謝申し上げます。臨床の現場に身を置きつつ，教育・学術にもかかわる一人の精神科医として，精神医療を改めて俯瞰する機会を得ております。

担当委員会の1つである卒前医学教育・卒後臨床研修委員会にかかわるなかで，精神医療の基盤を支える概念の1つが，「つなぐ」という働きではないかと感じております。本学会は今年度より，学会としてはじめて日本医学教育学会の機関会員となり，世代を越えた知や経験の継承とさらなる発展が期待されています。さらに，精神医学教育の質向上と，医学教育における精神医学領域の関与強化を目的として，「リエゾングループ」を設置し，学会間連携の取り組みも始まっております。教育はある時点で完結するものではなく，常に次の世代へと手渡されていくものであり，その連続性のなかにこそ本質があると考えております。こうした連携を通じて，精神医療の意義や実践が他領域にも共有され，より広く理解されていくことも期待されます。

このような「つなぐ」という視点は，日々の臨床においても同様です。精神医療においては，診断や治療そのものに加え，「次へとつながること」が支援の質を大きく左右します。人の人生を点ではなく線として捉え，その連続性を支えるかかわりは，精神医療を支える重要な土台の1つであると考えております。

また，近年の急速なオンライン化の進展は，学会活動の

あり方にも変化をもたらしました。時間的・地理的な制約が軽減されたことにより，臨床や家庭と両立しながら学会活動にかかわることが可能となりつつあります。こうした変化は，性別や居住地，さらには多様なライフステージにある方々が参画しやすい環境をもたらし，学会活動のあり方をより多様で包摂的なものへと変えつつあるように感じております。地方に拠点を置く著者自身にとっても，こうした変化は継続的な関与を支える重要な要素となっております。

さらに，代議員選挙や学会運営を支える庶務部門の活動においても，「つなぐ」という視点の重要性を実感しております。多様なかかわりを支えるためには，それぞれの状況に応じて無理なく参加し続けられる仕組みを整えていくことが求められます。経験や知見が途切れることなく次へと受け渡されていくことが，結果として精神医療全体の質の向上につながるのではないのでしょうか。

学会は，専門性を深める場であると同時に，世代や立場を越えて人と人をつなぐ基盤的な役割を担う存在でもあります。日々の臨床，教育，そして学術活動のなかで得られた経験が共有され，次の実践へと生かされていきます。その循環を支える場としての役割は，今後ますます重要になると考えます。

精神医療を支えているのは，日々の実践のなかで積み重ねられてきた「つなぎ」と「継承」であると感じております。こうしたかかわりを大切にしつつ，多くの皆様に支えていただきながら，著者自身も皆様と共に学び続け，成長していければと願っております。